



# 3月 土居隣保館カレンダー



日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3 ひな祭り	4	5
6 りんぼかん 隣保館まつり 10:00~15:00	7 さくひんてんじ 作品展 8:30~17:00	8 さくひんてんじ 作品展 8:30~17:00	9 さくひんてんじ 作品展 8:30~12:00 中学生子ども会 19:15~	10	11 ちゅうがくせいこ 中学生子ども会 17:00~	12
13	14 White Day	15	16	17	18	19
20	21 春分の日	22	23	24	25 しよくぎょうそうだん 職業相談 10:00~	26
27	28	29	30	31	4/1	4/2

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、予定が変更・中止となることがあります。

## 第30回 土居隣保館まつりについて



新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、児童・生徒の作文発表及び土居中学生の活動報告を中止し、児童生徒の作品（人権ポスター・人権標語・書道）、保育園児・幼稚園児の作品の展示のみ行うこととなりました。楽しみにしていた皆様には申し訳ありませんが、ご了承いただけますようお願いいたします。なお、9日（水）12時まで作品展を行いますので、ぜひご覧ください。

日程 3月6日（日）10:00~15:00 及び 7日（月）~9日（水）

ご来館の皆様へ 新型コロナウイルス感染症の感染防止対策にご協力ください。

- ・マスクの着用
- ・検温の実施
- ・手指消毒の励行
- ・来館者確認票の記入

※ご来館の際は、土居隣保館内駐車場をご利用ください。

# 土居隣保館便り

# 3月号

発行:土居隣保館 〒799-0703 土居町藤原 5-400-3 TEL/FAX 28-6356

## 子ども会について考える ~第2回、第3回土曜講座から~

今、県内の子ども会は少子化や人権教育一般への流れの中で、活動そのものができなくなったり、本来のねらいが見えづらくなるなど厳しい状況に置かれている所が少なくありません。そういう課題を踏まえてか、今年度の土曜講座で第2回「子ども会出身の高校生から」、第3回「子ども会指導者から」、第4回「大学生や社会人となった若者から」と、子ども会に関わる内容が連続で報告されました。第2回、第3回の講座内容の一部を紹介いたします。

### 1 第2回の「南予地域高校生友の会連合会の報告」から

DVDによる報告で、松野町「あおぞら子ども会」、愛南町「解放未来塾」、宇和島市「遠見子ども会」から高校生が一名ずつ参加し、司会者の質問に答える形で行われました。9個の質問があったのですがその中から2つ紹介します。

### Q1 自分の立場についていつ知ったか？知ってどうか？

- ・「小学校3年の時、子ども会で先生から」「中学校3年の時、子ども会で地域の聞き取りをした時」「子ども会に入る時父親から」など、知った年齢や誰から知ったかはそれぞれ違っていますが、共通しているのは子ども会活動を通して正しく知り、3人とも「知ってよかった。知らないままだと差別と今のように向き合えなかった」と語っていることです。
- ・さらに3人とも、信頼できる地区外の友達に伝え、差別を無くす仲間としてつながりを広げています。

### Q2 「寝た子を起こすな」論について

- ・「知らないままで一生を終えるかもしれないが、出会っても気づけない」「正しく学習していないから無くなっていない。正しいことを学び続ける」「差別と闘ってきた歴史がある。『寝た子を起こすな』は、自分が否定された気分になる」と3人とも差別ときちっと向き合っています。

### 2 第3回の「子ども会指導者の提案」から

「子ども会～指導者と育成の視点～」と題して、宇和島市、愛南町、松野町の子ども会指導者から提案がありました。子ども会のねらいとその必要性についての部分を紹介します。

## (1) 子ども会のねらい

### ○遠見子ども会

- 自分の立場を正しく知り、差別に負けない子どもを育てる。
- 教科書やネットからではなく、地域の人たちが差別と闘ってたくましく生きてきた姿から部落差別問題を学ぶ。
- 今は地域外からの参加もある。地域、地域外という分け方ではなく、今は、差別を無くす仲間という立場で共に学び活動している。

### ○解放未来塾

- 自分の立場を正しく知り、差別に負けない子どもを育てること。「あなたが言っていることはおかしいよ」と言える子どもを育てる。
- 現地研修に行き、いろんな差別と向き合っている。自分たちの差別問題との違いや共通点を学習し合っている。

### ○あおぞら子ども会

- 差別をなくしていく人になる。そのために何を考えどう行動するか。学び続けよう、仲間をつくろうと取り組んでいる。
- 子どもたちが自分の意志で人権について勉強しようとしている。部落問題についても考えてほしいと集まることで発足した。
- 今は部落、部落外に関わらず参加し活動している。
- 子どもたちが自分で調べたり、学習したりすることで、こうしたらどうかか提案できる子が育ってきた。地域に目を向けることで、聞き取り学習を通して地域の人の思いを知り、自分の問題として捉えていけるようになった。

## (2) なぜ、子ども会が必要か

### ○遠見子ども会

- 高校を卒業して県外へ行った。子ども会が無くて学校でしか学んでいなかったら、部落差別を受けるかもしれないとずっと不安でい続けたかもしれない。不安をほとんど抱かずにこれたのは、私には、もし何かあっても、帰る場所、相談できる仲間がいるという想いがあったから。
- 自分の子どもに立場を伝える時、悩む人も多いと思うが、遠見子ども会では、子どもに立場を伝えるのは子ども会の活動の中で。（保護者、先生、行政、先輩も一緒に）自分一人ではないと安心できる。

- 部落問題について語る場所があること。なかなか日常生活のなかでは話す機会が少ないが、子ども会では話ができる。

### ○あおぞら子ども会

- 同和問題について真剣に考えてほしいという3人の中学生からスタート。毎年差別を無くしたいと考える子どもたちが入ってくる。小学校4年からよくわからない中で部落差別の話聞きながら、少しずつ自分の思いを持ち、語るようになる。差別を無くすために自分でできることに取り組む。保護者も先生も地域の人みんな仲間という意識でやっている。
- 子どもたちの思いを支えて継続していくためにも子ども会は必要。
- 子どもたちが自分の言葉で発信。それを地域の人に関心を持ってくれる。周りの支えに子どもたちも気がついて、そこから学ぼうとしている。学校で学べない生の声、差別の現実が子ども会で学べた。

### ○解放未来塾

- 自分は、学校でも家庭でも同和問題について教わっていない。生活の中で被差別の立場なのかな、というマイナスの出会いをしてきた。
- 我が子にはこんな思いをさせたくないという思いで学習。たくさんの人との出会い、考えに触れ少しずつ変わることができた。まっすぐ前を向いていけるようになった。同じ思いの仲間ができた。娘も一児の母となったが、未来塾で正しく学べたこと、仲間との出会いが娘の財産になっている。
- だから子どものころから正しく学んで、仲間をつくって学べる子ども会が必要。

報告してくれた3子ども会では、小学生から高校生まで一緒に活動するなど、少人数の中で工夫しながら、子ども会本来のねらいにしっかりと軸足を置いて活動しています。子ども会については地域の実態もあり取り組みも様々だと思います。今回の報告内容が子ども会の課題に再度向き合う機会につながればありがたいと思います。

最後に、第3回の講座に参加していた中学生の発言を紹介しておきます。

「たくさんの人と出会い、たくさん経験ができた。地域の人から、差別を受けた痛みとか差別に負けない強さとか人を思いやる温かさとか部落差別について学べた。教科書には書いてないこともたくさん学べた。県内の子ども会との交流やフォーラムで意見交換ができたことなど子ども会があっよかった。」

と いるんほかんちょう むらかみ せいてつ  
土居隣保館長 村上 正哲